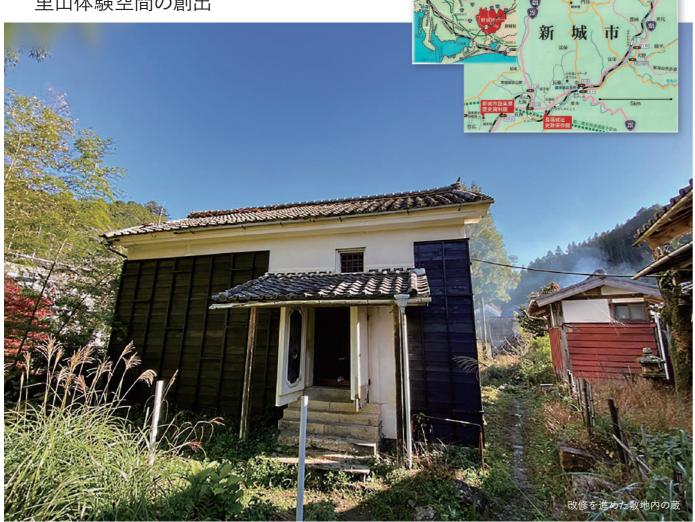
地域・コミュニティ活動助成

つげ野の森市民ネットワーク・黒谷プロジェクト

伝統建築再生に伴う学生への技術継承と 里山体験空間の創出



団体設立経緯

黒谷プロジェクトは2011年、愛 知県新城市の鳳来寺参道沿いにあ る由緒ある屋敷建築群を、地域の 社会資本として活性化しようと設立 しました。

屋敷の1つ、黒谷家で開催を続け ていた「こども塾」を、「奥三河発見 隊 | や豊橋技術科学大学の学生が 訪ねてきてくれたのをきっかけに、 黒谷プロジェクトは「地域・都会の 子どもに生かされる建築」としてス タートしました。 ヘリテージマネー ジャー(地域歴史文化遺産保全活 用推進員)・宮大工の望月成高さん

を介して工事が始まり、現在は名城 大学など他大学も参加しています。

活動概要と活動対象範囲

新城市門谷地区は信仰の山、鳳 来寺山の麓にある集落です。江戸 期には徳川家光によって建てられた 東照宮もあり、参拝客であふれる 活気ある地域でした。しかし現在 は限界集落になり始めています。

ここに残された古い由緒ある屋敷 を保存・修理して、現代の子どもた ちが、自分たちのアイデンティティー となる日本の文化を体験できる空間 として継承したい。建築学生には、

今では失われつつある伝統建築の 技術の一端を体験してもらいたい と、活動を続けています。

活動に至った理由や背景

およそ25年前、初めて空き家だっ た黒谷家に入ったときに、「おばあ ちゃんの家に戻ってきたみたい」と 懐かしいものを感じました。ここで 都会の子どもたちと遊び、お母さん たち同士をつないでいける活動にし たいと思い、「こども塾」を20年ほ ど続けてきました。2017年に文化 遺産登録の調査を受けたのをきっ かけに屋敷の価値の再発見に至り、

ヘリテージマネージャーである望月 工務店さんの協力の下、大学建築 科の学生さんたちへの伝統建築の 実践の学びの場につなげました。

活動内容と成果

1. 屋敷「蔵」の修復・改修

名城大学・生田研究室が中心と なって進める活動です。今年は蔵 の内部の調査に基づいて、どんな 改修ができるかプランを練るところ からスタートしました。

昨年、学生の実測方法に不足が あって、外壁鎧張りの仕上がりに齟 齬が生じてしまいました。大工さん からの指導で、2グループで実測値 を突き合わせて同じならOK、異な る場合は一致するまで測るという手 順を徹底しました。

名城大グループはゼミとして参加 しているので、生田研究室でデザイ ンをして数点の模型を持ち寄ってみ んなで討論し、計画案を決めまし た。多くの案が、日本の伝統的な 床座の文化を継承すべく天井を低く 保ちながら、外の自然の風・光・音 などを意識することを通してくつろ ぎ、遊ぶ空間づくりを感じられて良 いものでした。

片付けは昨年もしたのですが、 今年は蔵の1階の床を新たに張るこ とになりました。1階のすべての物 を片付け、物入れ棚なども撤去しま した。思った以上に大変な作業で したが、学生の力でやり遂げました。

こうして1階の杉板のホールができ 上がりました。大学で模型を扱うよ うな設計課題とは、違った経験に つながっているのではないでしょう か。伝統建築と建築学生に対する 熱い思いが表れている、望月氏の日 誌を以下にご紹介します。

●望月氏、ある日の日誌記録

蔵の床施工の根太組みにて既存 の床との不陸調整が完了。楔と水糸



1. 名城大学建築学科の 3. 痛んだ蔵の壁を修復









を多用して水平を造りました。地味 に長い時間を費やす作業を終えて、 改めて水平器で確かめ正確に水平 ができていることに、学生たちは作 業の厳しい実感を感じてくれていま す。地味に丁寧な作業の積み重ね が、仕上がりを左右する。

今日は床張りの段取りを進めてい ます。無垢板を使用するので、最 初に床板を並べて板の素性を見な がら、張る順番を決めてから張り始

名城大学生たちの施工可能最終 日となり、ついに14時30分を超え た時点で、時間的に危険と感じた。 助っ人職人に参戦してもらいました。 16時前には床張りの作業は完了。

同時進行で浮造り仕上げのL型の壁 を起こしていた別部隊に、床張り部 隊が加わる。再び参戦。L型の壁も 床張りから遅れること数時間後に作 業は完了し、無事に学生たちは計 画を完遂しました。

これで明日の鳳来寺山もみじ祭り で、名城大学学生たちは今回の蔵 の計画を一般に公開できます。黒 谷プロジェクト、学生たちが自分た ちの手で計画、設計・施工を行い、 将来学生たちが建築に携わる時に、 技術・知識・人間関係など何かの糧 となってくれてれば幸いです。

2. 母屋の屋根裏部屋を「黒プロ資 料保存一部屋に改修

豊橋技術科学大学(豊橋技科大)







(左の写真)壁に使う土づくり。藁と土を練り込んで発酵させる (中央の写真)蔵2階「資料室」の壁を塗り直すための下準備 (右の写真)西日の入射を調 整するために、窓にも造作を加える





(左の写真)土壁の下地となる小舞竹の編み込み (右の写真)完成した土壁

の建築サークルTYACCが中心とな るプロジェクトです。10年にわたる 活動の資料がたまってきました。毎 年学生は入れ替わるので、これま での取り組みや考え方をすぐ学習で きるように、西日が当たる8畳のロフ トを、資料を整理保管できる空間と して設計することになりました。資 料を保管すると同時に、見せられる 様にはどうすればよいか? 西陽をど うコントロールできるか?が課題と なりました。

今年の作業は、現代ではなかな か実施されなくなった、左官の壁塗 りでした。まずは土壁づくりから。 昨年までは70代の老練な職人さん でしたので、機械を使わないで手・ 身体で練ることを要求され、学生は 悲鳴を上げていました。その方は退 任され、若い方に替わりました。さ すがに今年からは機械を使って練っ ていました。2人の職人さんから1対 1で、1人1人コテの使い方や砂壁の 塗りの指導を受けました。酷暑の 中、狭いロフトでの作業の大変さは、

並大抵ではないものでした。資料 室での展示の方法につなげる棚な どは、これからの作業になります。

3. 玄関脇の崩れた鎧壁の補修、忌 門の小舞竹を編み土壁を塗る

望月工務店は、豊橋技科大と同じ 豊橋市にあります。秋から3カ月かけ て、同大の学生が作業場に通って藁 と土を練って発酵させる準備をしま した。忌門の壁土に用います。

暑い夏に小舞竹を編みました。 使う竹や縄の太さを決め、材料を そろえるところからの勉強でした。 ちょっと編み進めたところで縄が

太すぎるからと、何 度もやり直しながら 進みました。本職の 若い左官さんでも「小 舞竹は今ではめった にやらないなー」と 言っていました。この 後、土壁を塗る予定 でした。

毎年11月23日に開 催する地域の「もみじ

祭り」では建物を開放して、祭り参 加のみなさんにその年の成果を見て いただきます。2019年はホールで 記録映画を上映しました。前年に、 朝日新聞臨時支局として黒谷家に 滞在していた記者が撮影したもので す。中山間地の生活ドキュメンタリー 映画の発表の場にすることができ、 地域のみなさんがとても喜んでくれ ました。

この後12月から2月までは大学が 卒論・修論・現場実習などで忙し くなるので、例年作業は休止です。 次は季候の良い3月がスタートです。 今年も祭りを終えて、春休みに入っ てから土壁を塗る予定でした。しか し新型コロナウイルスの感染対策で まず名城大学がロックダウン、集団 作業は禁止になってしまいました。

豊橋技科大の学生が3月の間、 2~3人づつ毎週土曜に通って壁 を塗りましたが、その後同大もロッ クダウン、何もできなくなりました。 コロナが収束しないと、続きの作 業ができない状態です。



もみじ祭りでは、改修した蔵の1階で記録映像を上映

4. 参加学生の声

●名城大学大学院 加藤 大稀

私たちは研究室として新城市にあ る黒谷家の蔵に関わらせていただ き、床と階段横の手すりとなる壁を 製作しました。施主責任者は、子ど もたちが都会ではできない経験をす る場所として蔵を設え直しつつ、蔵 本来の良さを損なわないことを求め ていました。蔵本来の空間とは? そ の良さとは?

今まで現代建築にしか触れてこな かった私たちは、その魅力を言語化 し設計に生かすだけの知識は持って おらず、当初は計画の手立ても見え ずにいました。

そこで、黒谷家に長年携わってい る宮大工さんから、蔵の成り立ち、 年代ごとで異なる増改築の跡、効 率的に施工をするための手立て、実 測方法など建築の現場で使われる 様々な知識を丁寧に教えていただき ました。

今回のプロジェクトで吸収した確 かな知識、持ち主の方との話し合い と検討を経て、それを実際に施工す ることで、大学の授業では学べない 建築の計画から完成までの一連のプ ロセスを経験することができました。 私たちの建築家としての人生におい て、大きな糧となると思います。

●豊橋技術科学大学 有賀 拓

建築サークルTYACCは、黒谷家 で3つの改修を行いました。そのう ちの1つは、玄関横の朽ちていた土 壁と鎧張りの復元です。現在の住宅 では使われていない土壁を一からつ くる経験は、古民家改修ならではの 貴重な経験でした。夏の日差しが 強い中で、手や服を汚しながら皆で 真剣に土壁塗りをしたことが、とて も印象に残っています。

土壁を塗る際に、土を多く取り過 ぎてぼたっと下に落ちてしまったり、 逆に少なすぎて上手く塗れなかった

りと、職人さんのようには、中々き れいに塗れませんでした。ですが 徐々に上達していくことが実感でき、 やりがいがありました。鎧張りの作 成と合わせて約1年間の作業になり ました。現場の計測から必要とす る土量(材料)の算出、土(材料)の 準備、小舞竹編み・土壁塗り、鎧 張りの木材加工、塗装、組み立て、 取り付けの作業すべてに携わったこ とで、土壁に対する知識や道具の 使い方、伝統工法など多くのことを 皆と学び、経験を共有できました。

活動を通して、実作業する時間よ りも材料の準備や加工に多くの時 間とエネルギーが必要なことが分か り、普段私たちが作業できる環境 を整えてくださっている職人の方々 に、あつく感謝を申し上げたいです。 そしてこのような学生が成長できる 機会を与えてくださる黒谷プロジェ クト、来年も是非このプロジェクト に参加したいです。

課題と解決方策

助成対象活動である「伝統建築 再生に伴う学生への技術継承」の 実際は多分に危険を伴う活動です ので、天候条件を考慮して無理の ないようにしています。そのため天 候不順が続くと、なかなか計画通り に計画が進みません。毎年の課題 ですが、近年猛暑なども激しいよう に感じ、夏の活動を再考しなくては

ならないほどです。

大学生は毎年メンバーが変わる ので、各大学間の交流についても 意識的に計画を進めなければいけ ないという課題も出てきました。名 城大は大きな大学でゼミの規模も 大きく、各大学交流が難しくなって きています。

「こども塾」の方の取り組みが、な かなか進まなくなっています。次の 世代の若いお母さんたちの組織化 が課題になってきました。高速道路 ができ、名古屋から1時間とアクセ スが良くなりました。今年は新たな 指導部隊になってくださる学校の先 生と協力して、こども塾の開催回数 を増やしたいと計画中です。

今後の予定

- ① 「忌門」の伝統の土壁づくりはでき たので、漆喰の塗りを実践する予定
- ② 蔵の東側の外壁修復
- ③ 蔵の地下と1階のつながり・使い 方のデザインの立案・リフォーム
- ④ もみじ祭りに合わせて、蔵のライ トアップをデザイン
- ⑤ 名古屋の理科の先生による「親 子仮説実験授業」を、年間通してス タートさせる
- ⑥ 若いお母さんとの夏合宿計画・ 鳳来寺親子山登り計画など具体化
- ⑦ 資料室の展示造作

しかしどれも新コロナウイルスが 解決しなければ、進められない!!

つげ野の森市民ネットワーク・黒谷プロジェクト

2011年12月設立/メンバー数:約50人/代表者:中島 澄枝(なかしま・すみえ)

- ●〒461-0025 愛知県名古屋市東区徳川1-10-7 ローレルコート徳川201
- **№**052-935-7625 **►**Nakachan50@niftv.com
- **≡**kuroya.jp

子ども・建築学生たちを育て、未来へとつなげていくことが活動の目的です。建築 を学ぶ学生に向けては、伝統的な日本家屋の文化・技術を継承し、専門家による 技術体験・見学など黒谷家のすべてを使って活動しています。子どもたちにとって は、古い日本文化のテーマパークの様な遊び場となります。同時に地域への貢献も、 大切に位置付けていいます。